

2025年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2026/9/14

団体名		NPO法人日本ピーススマイル協会		活動タイトル		学習支援での青少年の自己肯定感向上と成長を促す体験機会づくり					
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）						■ 活動風景					
●地域の望ましい社会状況(ビジョン)		当団体の実現したいビジョンは、自殺もうつもない、誰もが人間らしく笑顔で生きる平和社会である。笑顔と平和は全ての人が享受すべき権利だと考えるからである。厚生労働省では自殺原因は複合的要因としているが、WHOによれば自殺者のほとんどがその前にメンタル疾患、もしくは依存症にかかっている。よって、健全な心作りによる予防こそが根本的な解決になると捉えている。現在、自殺予防対策はゲートキーパーの養成や悩み相談、ストレスチェックなどが主流である。しかし、これらは既に変調をきたした人への対応である。根本的な解決のためには、心が青信号のうちに黄色赤信号に流れないようにする未病対策のような対策が必要と考える。特に若い時から自尊感情を高め、生きる力を育む予防対策がなされ、青少年が自殺しなくて済む社会を目指す。				中央区勝どきでの学習支援 心の居場所活動の様子					
●団体の社会的役割（ミッション）		当団体の社会的役割（ミッション）は、青少年の自殺とうつを「予防」し、なくすことである。そのために青少年が自己肯定感を高め、「自分の価値」を認める教育プログラムを提供し、生きる力、幸福感を育む活動を行う。具体的には、以下のような取組みを推進する。 1）学校で自己肯定感や自信を向上する出前授業を実施 2）青少年に学校や地域を超えての心の居場所、成長の場を提供する居場所カフェや学習支援を実施。 3）親や教育関係者に、子どもの発達に合わせた子どもへの接し方や、愛着形成と自己肯定感を育む子育て法の知識などを提供。 4）10代・若者対象にLINEでの悩み相談を実施。									
●団体の活動基盤		●人材の確保と育成：活動基盤の強化として、ファンドレイジングや広報担当者が常勤で複数在籍すること。また居場所活動にて毎年卒業していく大学生ボランティアが毎年継続して拡充されること。 ●物的資源：事業を推進するための事務所兼、不登校の子たちも学校帰りの子たちも通いやすい事業所を確保すること。 ●活動資金：現状は、助成金の比率がとても高いため、自主財源として（会費・寄付・自主事業）の比率を高め、安定した事業運営を行えるようにすること。また行政事業の受託。 ●ナレッジ：団体の事業拡充と上記獲得のため、団体説明会を定期開催する。ボランティア対象の支援スキル研修を実施する。またセーフガーディングを実施できるように、リスク評価とマニュアル作りを行う。									
■ 活動報告				■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)							
1.おやつ付学習支援と居場所カフェを開催 おやつ付学習支援と居場所カフェを心の居場所として、勉強したり、おやつを食べながら対話したり、カードゲームなどをしながら、大学生や他学年との交流を行いました。受容されたり行動体験を増やすことでの自己肯定感や自信の向上を図りました。 2.長期休み期間での体験プログラムイベントを開催 冬休みにクリスマス会、夏休みに宿泊プログラムを実施し、日頃体験できない非日常空間や体験を提供しました。 3.団体報告会の実施 協力者や協力企業、特に学生ボランティアの増加や寄付の獲得を目指し、団体報告イベントやファンドレイジング活動を実施しました。 4.支援スキル向上を図る研修を実施 ボランティアを対象に行い、子どもたちへのより適切な接し方をする事で、子どもたちの更なる変容を促しました。また希死念慮者や悩みを抱える子たちが心を開示したり相談しやすくなりました。				1おやつ付学習支援と居場所カフェを開催 2か所で年間47回実施し、のべ340人に提供できました。不登校など事情を抱える子たちも保護者達が驚くほど元気になったり自信をつけることができました。 2長期休み期間での体験プログラムイベントを開催 冬休みにクリスマス会、夏休みに宿泊プログラムを実施し、自分に肯定的に向き合い、自己肯定感向上と自分への将来の可能性を見出すようになりました。前者ではお菓子作りをしたことのない子たちと実施し、後者は半数がひとり親家庭で非課税世帯からの参加となりました。 3.ファンドレイジングと団体報告会の実施 協力者や協力企業、寄付の獲得を目指し、団体報告イベントを実施し、思うようにいかず苦労した面も多かったですが、逆に思いがけず得た成果も多かったです。 4.支援スキル向上を図る研修を実施 基本の傾聴スキルから、事情ある子どもたちへの接し方までスタッフやボランティアが理解を深め、これまで以上に自信をもって積極的に子どもたちに関われるようになりました。				1泊2日の夏体験プログラム 自他の長所を発見するワークショップの様子			
■ 事業を通じて得られたノウハウ				■ 望ましい社会状況を達成するための課題							
特に夏休みに宿泊プログラムでは、助成金を活かしてこれまで以上に子どもたちの自己肯定や自信を伸ばす工夫を凝らす試行が様々できました。オリジナルTシャツを全員に配布しての一体感や、野外でのビザパーティなど非日常体験を増やせました。早速そのシャツを着て学習支援に顔を出してきた子もいました。 また、支援スキル向上を図る研修では、基本の傾聴スキルだけでなく、日頃のように子どもたちに接したらいいかというボランティアたちが抱える課題や悩みをとりあげてワークを行なうことができました。事後アンケートで参加者全員が、今後よりよく子どもたちの接し方ができると回答していました。スタッフやボランティアが理解を深め、これまで以上に自信をもって積極的に子どもたちに関われるようになりました。 この研修は社会福祉現場の専門家から学べるようにしたので、セーフガーディングの視点でリスクを避けるための学びを得られたと思います。 ファンドレイジングと団体報告会では、開催日時の設定などうまくいかなかった面も含めて、試行錯誤する機会を通して改善できるノウハウを得られました。				特に家や学校で自分を認めてもらえたり自信を育める場を持っていない子たちは、受容される居場所や人との接点とアプローチが必要です。特に子どもたちがうつや不登校など変調をきたす前に、自尊感情向上や自信の回復を促す関わりをすることが必要だと実感しています。それが心身の変調や孤立化、その先の自殺リスクの深刻化を避けることができるということです。 しかしながら、当団体の状況を見ても啓発活動から安定した活動持続のためのファンドレイジングにおいて常勤かつ専任担当者が必要ですが、雇用するのが難しい人的資源や活動資金不足という課題があります。 また、毎年卒業していく大学生ボランティアが毎年継続して拡充される必要もあります。 また、できれば事業を推進するための事務所兼、不登校の子たちも学校帰りの子たちも通いやすい事業所を確保できれば、多様な支援の在り方を形にできますが、そのような物的資源もめどが立っており、今後の課題です。 そのためにも、更なる寄付応援者の獲得、また行政事業の受託をしていくなど、助成金に偏らない自主収益を高めていく必要を感じています。				■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）			
				この1年間の活動を通じて		特に事情ある子どもたちの多様な心の居場所と成長体験と自己肯定感などの向上		を達成しました。			
				■ 受益者の具体的な変化（自由記入）							
				人の顔もみれなかった子や話せなかった子たちがどんどん変容していくのを現場では見ることができます。							